

# まちづくりの道しるべ

10年間のまちづくりの指針となる第2次遠野市総合計画。同計画の前期5年目を迎えた昨年、この先5年間の目標や取り組みむべきことなどを定めた「後期基本計画」を策定しました。まちづくりの新たな道しるべとなる同計画の概要を紹介します。

## 第2次遠野市 総合計画・基本構想

【計画期間】平成28年度～令和7年度(10年間)  
【前期】平成28年度～令和2年度 【後期】令和3年度～7年度

### 将来像

永遠の日本のふるさと遠野

### 共通優先方針

- 01 産業振興 雇用確保
- 02 少子化対策 子育て支援

### 基本理念

遠野スタイルの創造・発展

「遠野スタイル」とは、

- ▶ 地域の特性や資源を生かす
- ▶ 市民が主体性を持つ
- ▶ 自分たちのまちをより良くしようと行動する

### 5つの大綱

農林業や教育、地域づくりなど分野分けし、5つの大綱に整理。「施策」「事業」「まちづくり指標(5年間の目標値)」などを設定してまちづくりを進めています。

- 大綱1 自然を愛し 共生する まちづくり
- 大綱2 健やかに 人が輝く まちづくり
- 大綱3 活力を 創意で築く まちづくり
- 大綱4 ふるさとの 文化を育む まちづくり
- 大綱5 みんなで考え 支えあう まちづくり

### 前期基本計画

主要事業 150事業 まちづくり指標 135指標

基本構想と前期基本計画の検証を踏まえて

後期基本計画策定!

NEW

## 第2次遠野市総合計画 「後期基本計画」

【計画期間】令和3年度～7年度(5年間)



### 策定方針

- ▶ 前期基本計画の中間検証を踏まえる
- ▶ 社会情勢の急速な変化に対応
- ▶ 気象変動や感染症など新たな脅威に対応
- ▶ 市民の意向を反映させた市民協働による計画
- ▶ まちづくりの進行管理ができる計画
- ▶ 個別計画(市の各種計画)と整合のとれた計画

### 計画の特徴は4つ

ポイント

社会の変化に合わせて、前期基本計画から個別施策の約7割を見直し

### 01 少子高齢化社会への対応

- 個別施策
- ▶ 高齢者の技能等の継承と世代間交流の推進
  - ▶ 高齢者の多様化する働き方に対応する環境づくり
  - ▶ 市内企業の認知度向上、若者の地元定着支援
  - ▶ 地域おこし協力隊による地域活力発信 など

### 02 高度情報化社会・国際化に対応

- 個別施策
- ▶ オンライン申請の拡充
  - ▶ 旧遠野エリアの遠野テレビ伝送路の光化
  - ▶ AIやICTを活用した農業の高収益化
  - ▶ GIGAスクールとICT環境の活用 など

### 03 気象変動への対応・感染症対策

- 個別施策
- ▶ 砂防・治山治水の促進
  - ▶ 備蓄食料の確保・主要な道路網維持
  - ▶ 河川や水路の改修と適正な維持管理
  - ▶ 新型感染症の検査体制支援や拡大防止 など

### 04 小さな拠点による地域づくりに対応

- 個別施策
- ▶ 指定管理者制度等導入による地域づくり支援
  - ▶ みんなで築くふるさと遠野協働指針の地域づくり
  - ▶ 新たな地域支え合い(社会福祉法人等との連携)
  - ▶ 行政区・消防団再編、関係団体の体制見直し など

主要事業 113事業 まちづくり指標 118指標

### 後期基本計画策定 新たな5年間のまちづくり

市は昨年、令和3～7年度を期間とする「第2次遠野市総合計画後期基本計画」を策定。令和2年12月市議会定例会で議決されました。同計画は、平成28年度から10年間のまちづくりの指針「第2次遠野市総合計画」を実現し、急速に変化する社会情勢に対応しようとするもの。より良い地域を目指して、何を目標に、どんな取り組みを行うのか、5年間のまちづくりを具体化しています。本年4月から、同計画を基にまちづくりが進められます。

### さまざまな視点と市民の声 市民協働で未来を思い描く

後期基本計画は昨年5月、市職員で組織する総合計画策定委員会を設置後、策定チームや分野別検討チームを立ち上げ計画作りを始めました。作業は▽前期基本計画の中間検証を踏まえる▽社会情勢の急速な変化への対応▽市民の意見を反映させた市民協働による計画など6つを策定方針に議論を深めました。計画策定には市民も大きく関わっています。子育てや産業、次世代を担う高校生など、分野別に「市長と語るうさ会」を開催。「ワーキンググループ」では、25のテーマ別に市民と市職員らが意見を出し合いました。また、直近の各種市民アンケートから課題やニーズを分析。さまざまな視点、市民の声を大切にして計画は整理されています。まとめられた内容は、各関係機関団体などの代表者25人で組織する「遠野市総合計画審議会」が審議。市民と行政が連携して産業や教育などの分野別に熱い議論を交わし、5年、さらにはその先の未来を思い描き、計画を作り上げました。

### 個別施策は約7割見直し まちづくり再スタート

完成した後期基本計画は社会情勢の急速な変化に引き合い、世界共通の持続可能な開発目標「SDGs」の視点を取り入れ▽459の個別施策▽113の主要事業▽118のまちづくり指標を設定しています。特徴には、少子高齢化社会や高度情報化社会、小さな拠点による地域づくりへの対応などが挙げられます。個別施策は▽社会福祉法人などとの連携による新たな地域支え合い▽行政区・消防団再編▽AI(人工知能)やICT(情報通信機器)を活用した農業の高収益化など前期基本計画から約7割を見直し、30の新規事業を展開することとしています。



# まちづくりの道しるべ



明けましておめでとうございます。市民の皆さまも見えないコロナウイルスと向き合いながら思いの正月を迎えられたことと思います。新年にあたり新たな夢や希望、そして願いを込めた方も多いのではないのでしょうか。

令和2年、新型コロナウイルス感染症が実に多くの悩ましい課題を突き付けてきました。「仕方ない」「やむを得ない」。その言葉に次ぐ対応を求めながら、前へと歩み続けた1年でした。

平成28年度を初年度とする「第2次遠野市総合計画」策定から5年。「永遠の日本のふるさと遠野」を将来像に市民一丸となって、前期基本計画に基づくまちづくりを進めてまいりました。今般、多くの市民の皆さまや総合計画審議会委員、関係者の皆さまと共に、遠野のこれからの5年間、さらにはその先の未来に向け「遠野市総合計画後期基本計画」を策定いたしました。ご意見・ご提言を寄せていただいた多くの皆さまに心から感謝申し上げます。また、後期基本計画と併せて、堅実な財政を目指し第四次健全財政5カ年計画なども策定

## 後期5カ年「支え合う」まちづくり

しております。まちづくりの確実な実行と安定した財政基盤の構築に向け、まず市民目線を基本として、いわゆる「総合力」。

社会経済情勢は刻一刻、変化しています。想定外の自然災害も世界規模で多発しています。加えて「コロナ禍」。新たな生活様式が求められ、これまでの日常が一変。今までには考えられないような社会が現実となっています。まちづくりの柱をしっかりと立て、将来予測を持ちながらこの変化に柔軟に対応していかなければなりません。

総合計画基本構想で掲げる本市のまちづくりの基本理念は「遠野スタイルの創造・発展」。▷地域の特性や資源を生かす▷市民が主体性を持つ▷自分たちのまちをより良くしようと行動する一市民と行政の協働活動、「遠野スタイル」を大切にしておき、着実に取り組んできました。これを踏まえ、令和3年度から総合計画後期基本計画がスタートします。「支え合う」を地域づくりの新たなキーワードに加え、2万6千市民の底力を結集して前へ前へと進んでまいりましょう。

## 第四次 遠野市健全財政5カ年計画

# まちづくりを支える 財政計画

市は総合計画を確実に実行するため、後期基本計画と併せて健全財政5カ年計画を策定しました。まちづくりに欠かせない健全な財政運営を図る計画の概要を紹介いたします。

### 一層の「選択と集中」 安定・健全な財政基盤を築く

市は総合計画後期基本計画と併せて、「第四次遠野市健全財政5カ年計画(令和3年度～7年度)」を策定しました。同計画を基本に基金(貯金)と市債(借金)、歳入(収入)と歳出(支出)のバランスを保ち、健全な財政運営とまちづくりを進めます。

市のお金は現在、健全化の取り組み無しで使い続けると貯金にあたる主要3基金(※)が底をつく見通しです。第四次5カ年計画では3つの基本方針と方策を掲げ、歳入確保と歳出抑制策を展開。5年間で、▽約9億円の財政効果▽令和7年度末の3基金残高16億円以上▽市債残高165億円以下など6つの目標を立てています。平成28年からの第三次5カ年計画では、約19億円の財政効果を生

み出しましたが、3基金の残高は減少しています。主な要因は、▽国から市に入る地方交付税の大幅減▽台風10号の災害復旧▽東北横断自動車道釜石秋田線全線開通を契機とした観光振興策の実施など。基金取り崩しが増えたことで、本年度末の残高は目標額を下回る見込みです。人口減少が続けば国から交付されるお金は減額されます。市の歳入は今後も減っていくと予測されます。一方で歳出は、高齢化に伴う社会保障費の増、水道光熱費や資材などの高騰により、さらなる経費圧縮は厳しさを増しています。▽公共施設数の適正化▽使用料・手数料などの受益者負担の基本に立ち返った抜本的な見直しなどの検討も必要になります。限られた予算で将来を見据えたまちづくりを確実に進めていくため、計画を基に「選択と集中」を一層大切に、安定した財政基盤構築と健全な財政運営を図ります。

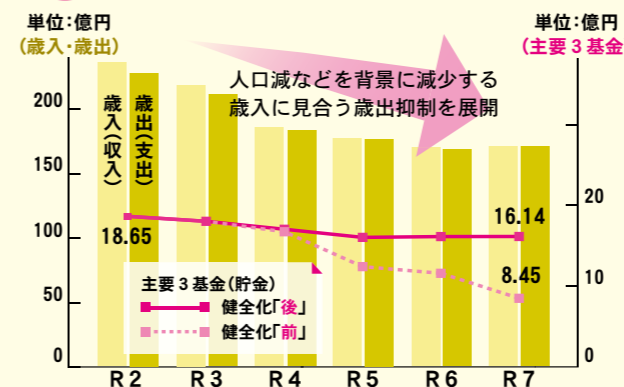
### 基本方針

- ▶ 地域経済の回復・成長につながる事業へ予算を集中
- ▶ 財政健全化を念頭に事業を選択
- ▶ 聖域なき事業見直し(財健全化判断比率の維持を基本に)

### 健全化、6つの主な方策

- ▶ 投資的経費の選択と重点化
- ▶ 計画的な借入による市債残高の減少
- ▶ 市単独事業の検証
- ▶ 民営化、第三セクター改革の推進
- ▶ 年度末基金残高の確保
- ▶ 使用料や手数料などの適正化

### 健全財政の見通し



### 目指す姿

- ▶ R4以降、年間予算170億円前後で推移
- ▶ 市債(借金)の計画的削減
- ▶ 3基金は16億円以上残す(R7目標=16億1,400万円)
- ▶ 安定した財政基盤作り

### (※)主要3基金とは

- ①財政調整基金…年度間の収支、財源の不足に備える貯金
- ②市債管理基金…市債(借金)の返済に必要な財源を確保
- ③公共施設等整備基金…庁舎や教育施設整備など、特定の目的に活用する貯金

計画の詳細は、市ホームページへ  
遠野市 財政計画  検索

準備中!  
第2次遠野市総合計画  
後期基本計画

## 市内各世帯に配布します! 後期基本計画「概要版」、ご覧ください

市総合計画「後期基本計画」の内容をまとめた冊子を全戸配布します。5年間のまちづくりの目標や取り組みなど、計画の概要を図や資料を交えて紹介します。ぜひ、一読ください。

- 配布物 後期基本計画の概要冊子
- 配布予定日 3月18日(木)
- 問い合わせ 市政担当(☎62-2111内線218)